

平成 23 年度地区懇談会(登別温泉地区)議事録(概要)

平成 23 年 10 月 24 日(月)登別温泉公民館 出席者数 17 人

事前質問:ホテル・旅館・事業所等の女性就労者の為の保育所(託児所)の設立について【担当:子育てG】

回答:保健福祉部長

- ・この件は、登別温泉旅館組合から要請があり、今春に懇談会が開催され意見交換・情報交換を行った経緯がある。
- ・現在、旅館組合において『ホテル・旅館従業員の確保及び若年労働者の定住』等の対応を行うため、幼児等の預かり施設の設置等について、関係機関との調整を含め検討を進めているものと承知している。
- ・今後も、市も参加した中で、引き続き協議を行うこととしているので、それらの経過を踏まえた上で、どのような支援ができるのか検討して行きたいと考えている。市としても、道と相談している。

事前質問:道道洞爺湖登別線沿道の除草及びクスリサンベツ川両岸の除草について【担当:管理G】

回答:都市整備部参与

- ・道道と河川を管理する道としては、道道洞爺湖登別線の除草について、市や関係団体が実施する箇所以外は道が実施しているが、予算の関係から、特に道路としての機能に支障がない限り、回数を増やすことができない状況とのこと。
- ・クスリサンベツ川両岸の除草について、河川内の草刈りは、予算の制約もあり、河川機能の障害にならなければ草刈りを行うことができないが、地元の皆さんに草刈りを行ってもらい、その費用を道で負担する『市民団体協働の川づくり事業』がある。各地域の要望を市で取りまとめ、道に要望していく。
- ・市としては、町内会の皆さんのご意見を伺いながら、適切な管理を道に要望していきたいと考えている。

事前質問:登別インフォメーションプラザの今後の計画について【担当:観光振興G】

回答:観光経済部長

- ・インフォメーションプラザは市が観光協会に委託し運営しているが、この運営に係る経費は全額が道からの補助金約 2,000 万円になるが、来年度以降は、全額を市が負担することは財政状況からできないと考えている。
- ・登別は、道内で訪日外国人観光客の宿泊延べ数が 2 番目に多い地域となっていることや、今年度、国の訪日外国人受け入れ環境整備のモデル地区として指定され、来客の多い台湾人観光客をターゲットにした夜のコンテンツ作りについて旅づくり塾を開催し進めているところ。
- ・インフォメーションプラザの職員も大変頑張っており、開設しているブログでは飲食店の紹介をユーチューブで放映したり、温泉街などの催しを取材したりして、リアルタイムで話題を発信するなど、努力している。地域からもインフォメーションプラザの存続について要望を聞いている。
- ・インフォメーションプラザの今後は、観光協会とも協議をしているが、現在の状態でインフォメーションプラザを運営した場合は、別々の建物となるので賃貸料や高熱水費などの経費が二重に発生する。
- ・また、観光協会の会館も大変古く、トイレが地下にあり、観光客にとっては利用しづらい状況となっているほか、イベントに必要な道具類も大変多く、建物内の保管場所が狭いため、ロビーや階段に置きっぱなしという状況であり、観光協会内に移転させた場合は、人も入りきらない状況になってしまう。
- ・現在の状況のまま、インフォメーションプラザを継続して運営するには、多くの問題や経費も必要となる。最低限の経費で最大限の効果が図られるような運営を目指したいと考えているので、もう少し時間をいただきたい。市としても残す方向で観光協会と協議を行っていききたい。

意見:

- ・確かに観光協会とインフォメーションプラザの 2 か所だとコスト面で大変。プラザの職員は英語・韓国語・中国語が話せる貴重な人材。存続をお願いしたい。

回答:観光経済部長

- ・支出を抑制するために、2つのインフォメーション機能のある場所の統合や収入を得る手段を観光協会と検討している。

事前質問:紅葉谷道路拡幅工事の進捗状況について〔担当:管理G〕

回答: 都市整備部参与

- ・工事を行っている道に確認したところ、中登別町から先は地形の問題があり、現在、スキージャンプ台のようになっているが、施工中の高さと施工済の高さに、差が出るような竣工にはならないとのこと。
- ・完成時期は平成25年よりずれ込む予定とのこと。

意見:

- ・登別温泉街から行くと下から上昇する線形に見える。冬季、現道と同じくカーブや傾斜で滑るのでは。
- ・絵で完成図が見たい。一度説明会をしてほしい。

回答: 都市整備部参与

- ・道に要望する。

事前質問:登別厚生年金病院存続について〔担当:健康推進G〕

回答: 保健福祉部長

- ・社会保険病院等の売却を目的とした現在のRFOを、病院等の運営等を目的とする『独立行政法人地域医療機能推進機構』に改組し、社会保険病院等を公的病院として存続し、地域医療に貢献し続けられるようとする法案が平成23年6月17日に成立した。
- ・主な内容は、社会保険病院等の建物や施設を『独立行政法人地域医療機能推進機構』に引き継ぎ、各病院の運営を一括して行うこととし、新機構の役割としては、『救急医療』『災害時医療』『僻地医療』『周産期医療』『小児医療』『リハビリテーション』等、地域に必要な医療・介護を提供する機能を確保することを位置付けている。
- ・新機構は、引き続き病院の民間売却も目指す組織としているが、この際にはこれら機能の維持を条件とし、地元の知事や市町村長の意見を聞くことを義務付けている。
- ・今回成立した法案の具体的な内容が未だ示されていないことから、国の動向を注視し情報収集に努めるとともに、国の責任において公的病院としての存続に向け、登別厚生年金病院とも連絡を密にしながら、全力を挙げて取り組んでいく。

事前質問:JR登別駅のエレベーター設置について〔担当:観光振興G〕

回答: 観光経済部長

- ・国土交通省から『移動等円滑化の促進に関する基本方針』の改正案が示され、この改正案に対するパブリックコメントの募集が、昨年12月24日から今年1月24日までであったので、市からパブリックコメントの提出を行った。
- ・基本方針改正案のエレベーター設置に係る主な内容としては、1日当たりの利用者が5,000人となっていたのが3,000人、整備期限は平成22年までとしていたのが平成32年度に改正され、実施にあたっては「この場合、地域の要請及び支援の下、鉄軌道駅の構造等の制約条件を踏まえ可能な限りの整備を行うこととする」という項目が追加となっている。
- ・この改正案に対し、市は基本的に賛意を示すこととしたが、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備については膨大な費用を要することから、JR登別駅を管理するJR北海道や、市も厳しい財政状況によりこれに応えることは困難なため、国の支援を得て整備することを希望するとのパブリックコメントを提出した。
- ・基本方針は、「地域の実情にかんがみ利用者数のみならず、高齢者、障害者等の利用の実態等を踏まえて移動等円滑化を可能な限り実施する」となっており、観光地登別温泉への玄関口となっている同駅は全

ての特急が停車する市内唯一の駅であるので、登別観光協会と協力しながら国に対し引き続き整備について要望していく。

意見：

- ・エレベーター設置に関し、我々や観光協会、旅館組合、登別地区などを含めた協議会を早くつくってほしい。お客さんをこのままにしておけない。

回答：市長

- ・エレベーター設置までの間もお客さんは来る。その間の対応も考えないといけない。
- ・協議会をつくるとは言えないが、各団体の意見を聞いて年内に方向性を出したい。駅前周辺整備も含めて、年内に話し合いをやりたい。

意見：

- ・まちの中もバリアフリーにしてほしい。障がい者が一番困るのがトイレ。まち中や泉源公園にもトイレがほしい。
- ・観光協会のトイレは階段下にあり利用は難しい。コンビニエンスストアのトイレがバリアフリー対応になると一番良い。

情報提供：地域とともに描くまちづくり

説明：市長

- ・ペーパーに書いてあること以外で話し合いをしたいことがあれば、11月中に書き込んでほしい。JR登別駅や駅前周辺などの将来の課題について具体的に話し合いたい。
- ・市長自ら話し合いをする覚悟で進めていきたい。

地区連合町内会：発言なし

その他：広域消防の進捗について【担当：消防本部総務G】

意見：

- ・広域消防の進捗状況をお聞きしたい。

回答：消防長

- ・各消防本部とも、交代勤務や財源の仕組みが違い、課題を出し合って検討している。

その他：小・中学校への情報提供について【担当：学校教育G】

意見：

- ・10月3日から5日まで、海老名市の市民訪問団が来登したことを先生は知らなかった。地域で行われていることを朝礼で話すこともあると思う。

回答：教育部長

- ・校長会とも相談して、地域の話が学校に伝えていこうと思う。

その他：東日本大震災被災地支援について【担当：総務G】

意見：

- ・姉妹都市の宮城県白石市の被害状況は、
- ・がれき受け入れの話はあるのか。

回答：市長

- ・皆さんからお預かりした物資は、被災各県に行っている。白石市の被害額は50億円以上。
- ・行政の話をする、宮城県山元町をはじめ被災地各地に職員を派遣した。
- ・12月には岩手県陸前高田市に派遣する。皆さんから違う形で協力したいという意見があればありがたい。